

ジェット旅客機がおもになった最近の航空気象業務

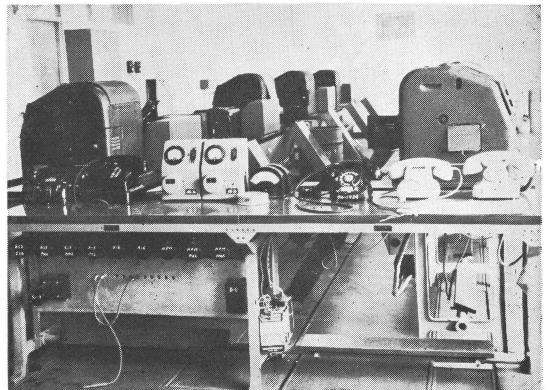


口絵 No. 1. 現在就航しているジェット旅客機はコメット4型，ボーイング707，及びダグラスDC-8の3機種である。

写真は日本航空が用いているものでダグラスDC-8である。巡航速度は483ノット，平均巡航高度は36,000フィートである。

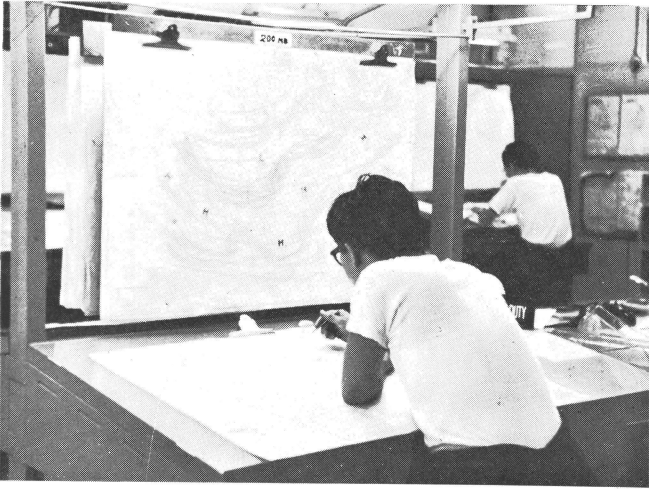


口絵 No. 2. ジェット旅客機を操縦するには最も熟練した乗員が必要である。このための訓練の第1段階としては地上で写真のようなシミュレータを用いる機内と全く同じメーターを配置して実際の飛行と同じ結果が表われるような装置である。写真は日本航空の訓練状況である。



口絵 No. 3. ジェット旅客機は航続距離がのびるから関係する地域が広くなる。したがって気象資料の蒐集も広範囲に亘る。

写真は羽田の航空気象台の通信施設で外国の隣接の飛行場の気象台と結ばれている。



口絵 No. 4. ジェット機の運航のためには 300mb 及び 200mb の解析と最大風解析がさらに必要になった。写真の 200mb 解析はジェット機高度の平均高度に相当するので重要である。航空気象台では 1 日 2 回の解析と 2 回の予想天気図を作成している。

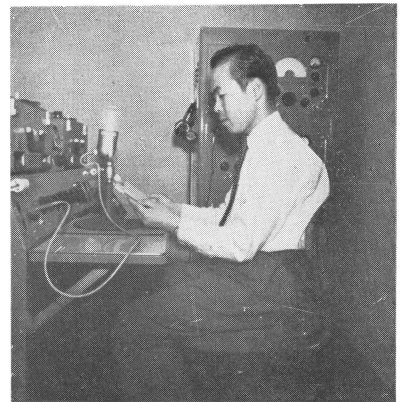


口絵 No. 5. ジェット機の経済運航のためには、ジェット機を最高高度に利用する最短時間飛行航路を決めて運航する必要がある。日本航空では航空気象台の 200mb 天気図を基に写真に示すベンディックスの G-150 型電子計算機を用いて最短時間飛行航路を決定する。



口絵 No. 6. ジェット機の乗員には今迄の気象ブリーフィングとは違って特にその日のジェット流の状況の説明が必要である。

写真は航空気象台におけるエアフランスボーイング 707 機乗員に対するブリーフィング。



口絵 No. 7. 着陸 2～3 時間前の飛行中のジェット機は着陸地の気象変化に鋭敏である。このためには 3 時間予報を知らせてやる。写真は航空気象台の対機無線電話放送施設で毎時間 2 回実況と 3 時間予報を放送している。(東航気 上松)

写真 1. 2. 5. は日本航空提供 3. 4. 6. 7. は筆者撮映